

平成26年度大磯町教育委員会第9回定例会会議録

1. 日 時 平成26年12月18日（金）

開会時間 午前9時00分

閉会時間 午前10時15分

2. 場 所 大磯町郷土資料館 研修室

3. 出席者 青 山 啓 子 委員長

中 野 泉 委員長職務代理者

曾 田 成 則 委員

濱 名 三代子 委員

藤 家 崇 教育長

岩 本 清 嗣 学校教育課長

小 島 昇 学校教育課副課長

瀬 戸 克 彦 子育て支援課長

佐 川 和 裕 生涯学習課長兼図書館長

國 見 徹 生涯学習課郷土資料館長

谷 河 かおり 学校教育課教育総務係長

4. 傍聴者 1名

5. 前回会議録等の承認

6. 教育長報告

7. 報告事項

報告事項第 1 号 教科書採択地区の変更について

報告事項第 2 号 小規模保育事業の実施について

報告事項第 3 号 町立幼稚園に係るアンケート調査について

報告事項第 4 号 平成 26 年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの開催について

報告事項第 5 号 第 61 回おおいそ文化祭の実施結果について

報告事項第 6 号 図書館教養講座『湘南の考古学』の開催について

報告事項第 7 号 大磯町合併 60 周年記念 第 13 回大磯図書館まつりの実施結果について

報告事項第 8 号 郷土資料館運営委員の委嘱について

報告事項第 9 号 郷土資料館リニューアルについて

報告事項第 10 号 企画展「大磯の文化財」の開催について

報告事項第 11 号 合併 60 周年記念企画展「地図と風景写真から見る大磯の実施結果」について

8. その他

(開会)

出席委員が5名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により定例会は成立し、大磯町教育委員会会議規則第14条及び第19条の規定により傍聴を許可します。暫時休憩ののち傍聴人が入室し再開した。

(前回会議録等の承認)

委員長より前回会議録の項目を読み上げ、出席委員全員の承認を得る。

教育長報告

教育長) 私からは、11月定例会開催後の平成26年11月20日から本日までの教育委員会諸行事等について報告させていただきます。11月20日から21日にかけて、関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会が、鎌倉市と藤沢市を会場に開催され、県内市町村の社会教育委員がホスト役として大会運営を行いました。大磯町からは社会教育委員9名が参加し、大会を盛り上げました。12月5日から7日にかけて、教育研究所の人権教育研修事業として、大磯中学校の教員1名が、高松市で開催された全国人権・同和教育研究大会に参加しました。12月5日、国府小学校で、横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンターの白井達夫主任研究員を講師に迎え、授業研究会を開催しました。かながわ学びづくり推進地域研究委託事業により、各学校で組織的な学校研究が進められています。同日、神奈川県教育事務所長会による生沢分校訪問が行われました。神奈川県の4つの教育事務所長をはじめ、横浜市の教育事務所長も参加し、生沢分校の授業参観とおおいそ学園の施設見学を行いました。生沢分校への理解と支援の充実に向けて、よい機会となりました。12月6日、世代交流センターにて、国府保育園おたのしみ会を、11日は国府幼稚園、12日は大磯幼稚園とたかとり幼稚園で、保育発表会を開催しました。教育委員の皆様には、ご観覧いただきありがとうございました。12月6日および13日、OISO学び塾が開催され、町と協定を結んでいる東海大学から講師を迎えて相模國を訪れた二人の王朝女性をテーマに講演を行いました。古典文学に描かれた女性の生き方が、現代の女性の輝く社会の考え方にも通じ、参加者にたいへん好評でした。12月15日および17日、採用1年目から3年目までの町職員を対象に、人権研修会が開催され、生涯学習課の人権担当の社会教育指導員が講師となって、さまざまな人権問題や窓口対応について研修を行いました。その他の諸行事につきましては、執行状況表のとおりです。また、今後の予定につきましては、執行予定表をご参照ください。

報告事項第1号 教科書採択地区の変更について

学校教育副課長) このことにつきましては、教科用図書採択地区の変更に関する要望を本年度第4回大磯町教育委員会定例会でご承認いただき、県教育委員会へ7月31日付けで要望をいたしました。このたび、資料にございますとおり、11月21日付けで神奈川県教育委員会教育長より、要望どおり採択地区が変更され、神奈川県公報に告示された旨の通知がありましたのでご報告申し

上げます。これにより、平成 27 年 4 月 1 日から大磯町と二宮町は、それぞれ単独の採択地区となり、来年度予定されています中学校の教科書採択は、これまで二宮町と設置してきました協議会は必要がなくなります。今後、来年度に向け、大磯町として、仮称ですが教科用図書選定審議会を設置するなどの準備を進めてまいりますので、引き続き教科書の採択が採択権者の権限と責任のもと、公正かつ適正に行われますよう委員の皆様のご協力をお願いいたします。教科書採択地区の変更についての報告につきましては以上です。

質疑応答)

委員長) 要望を出した件について答えが出てきたということで、改めて教科書採択に関して、私たち教育委員の責任の重さを再度自覚して、来年度の採択に当たっていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

報告事項第2号 小規模保育事業の実施について

子育て支援課長) 小規模保育事業については、平成 27 年 4 月よりスタートいたします、子ども・子育て支援新制度の地域型保育事業の一つで、0 歳から 2 歳までのお子さんを保育する施設となります。この度、平成 27 年の 4 月より開園を予定しております事業者より、平成 26 年 11 月 4 日付けで事前相談書の提出がありましたので、その内容について報告するものです。事業内容といたしましては、施設名称は、もあな・こびとのこやで、fairy shed、妖精の小屋と言ったイメージで名称を考えたと聞いております。次に施設の種類は、小規模保育事業の A 型になります。A 型ですので、一番保育所の基準に近い施設となります。配置する職員も保育士で施設も保育所の基準面積を適用することになります。次に所在ですが、資料の 2 ページをご覧ください。大磯町大磯 1668 番地で三沢橋の交差点を南側に 100m 程度進んだ、川の西側になります。以前、並木歯科がありましたビルの 1 階の部分になります。事業を実施する法人は、特定非営利活動法人もあなキッズ自然楽校で、こちらは横浜市に所在する法人となります。もあなキッズ自然楽校としては、平成 21 年 4 月より NPO 法人化しておりますが、昨年他の NPO 法人と合併したことにより、平成 26 年 4 月に新たに法人の設立となっております。また、こちらの法人につきましては、現在、横浜市の認定を受けた保育所を 2ヶ所、同じく横浜市の認定を受けた家庭的保育所を 1ヶ所。その他に、認可外保育所と放課後児童クラブを 1ヶ所ずつ運営しており、保育施設の運営実績は十分にあると認識しております。また、保育方針としては、森のようちえんスタイルの保育を掲げており、自然の中で、子どもたちの力を信じ、見守りながら育てるを基本に横浜市での保育所を運営した実績から、大磯町の自然資源を活用し、少人数で家庭的な環境での保育を進めていきたいと聞いております。保育内容については、定員が全部で 8 名となっております。内訳は 0 歳児が

2名、1歳児が2名、2歳児が4名の計8名になります。これに合わせて職員も常勤2名、非常勤4名の6人体制で運営していくことです。保育日及び時間については、月曜から土曜日の午前7時30分から午後7時までとなります。また、こちら施設については年明けより準備のための改修工事を予定しております。その改修工事の実施にあたり、県の安心こども交付金事業費補助金の小規模保育設置促進事業の補助を活用していくことになっております。それに伴いまして、町の負担分も含めて、この12月議会に補正予算として計上いたしました。なお、施設の整備が終了したら、施設の状況を確認した上で町が認可し、地域型保育給付の対象として、給付制度の中で対応してまいります。

質疑応答)

中野委員) ここは、園庭は、ほとんどないかと思いますが、この保育所のポリシーとして、自然と触れ合うことがあるようですが、どこかに連れて行ってお散歩させるというような計画なのですか。

子育て支援課長) 基本的にはビルですので、園庭は無い状況です。事業者は、近くにありますなかよし公園や海、また、知人が農地を所有しているので、その辺を活用し、自然の中で遊ぶようなことを考えていると聞いております。

中野委員) わかりました。ありがとうございます。

濱野委員) 横浜の方に、既にいろいろ施設をお持ちですが、そこでの問題とかトラブルなどはないのかということと、施設の評判というのがわかつていれば教えてください。

子育て支援課長) 横浜でのトラブルは特に聞いておりません。また、各保育所は、概ね定員までお子さんをお預かりしているようなので、評判は上々であると考えております。

中野委員) ここを、見学に行ったりということはできるのですか。

子育て支援課長) 改修工事が終わり次第、ぜひとも施設の視察をしていただければと思います。事業者とその辺を調整した上で、2月の末ぐらいになるかとは思いますが、またお声がけをさせていただきます。

中野委員) よろしくお願ひします。

報告事項第3号 町立幼稚園に係るアンケート調査について

子育て支援課長) こちらのアンケート調査につきましては、先に実施いたしました新制度の保護者への説明会の中で、今後の幼稚園の教育・保育の内容や、提供されるサービス等について、多くのご意見をいただきましたので、それを踏まえて幼稚園が中心となり実施したアンケートとなっております。アンケートの実施方法といたしましては、10月第2週目に各園から保護者の方へ配布し、翌週あたりまでに各園で直接回収しております。それでは、1枚おめ

くりいただき、参考資料となっております、アンケートの調査表をご覧ください。設問は、全部で 24 問ありますが、大きく分けて 7 つの課題について聞いております。1 つ目が、水曜日の 1 日保育についてで、二つ目が、預かり保育、3 つ目が、夏休み中の夏季保育についてで、4 つ目が、体験入園、5 つ目が、各種教育活動についてで、6 つ目が、通園区域、園バスで、7 つ目が、給食についてで、最後に自由意見が記載できるようになっております。それでは、アンケート調査の集計表をご覧ください。アンケート集計のポイントとなるところを簡単にご説明させていただきます。1 ページ目をご覧ください。1 ページ目の問 1 ですが、アンケートの回収率を各園及び学年ごとに表にまとめてあります。国府幼稚園の年長を除いて、80%以上の回答率となっております。全体では 85%という高い回答率となっております。次に問 2 及び問 3 では、水曜日の 1 日保育の希望について聞いておりますが、若干 1 日保育の希望者が多い結果となっております。次に 2 ページ及び 3 ページをご覧ください。設問 4 から設問 8 で、預かり保育について聞いています。結果としては、実際に現在利用している方は半数程度ですが、利用しない理由を見ると、機会や条件が合わないが一番多いことからみても、今後拡充されれば、利用する方も多くいることが予想されます。特に、実施回数より時間延長のニーズが高いことが見受けられます。4 ページ及び 5 ページをご覧ください。4 ページの問 10 及び問 11 の夏季保育の希望については、約 8 割近くの方が夏季保育の実施を希望しております。希望する方の 4 割程度の方が 1 週間の実施を希望しています。5 ページの問 12 及び問 13 では体験入園の利用状況について、聞いております。約 6 割の方が利用しておりますが、利用していない理由の 2 番目に知らなかつたとの回答もありますので、今後、周知の方法等の検討が必要と思われます。次に、6 ページ及び 7 ページをご覧ください。問 14 から問 17 では、各園で実施している各種教育活動、例えば AET や体操、リトミックなどの実施について、聞いております。問 14 で普通と回答した方を含めると 95%の方が各種教育活動に納得して頂いている状況と考えられます。ただし、約 60%の方は活動が少ないと回答されていることや、7 割近くの方が特に希望する教育活動は無いと回答されていますので、現在の教育活動のまま実施回数が増えることが保護者の方の希望と読み取れます。次に、8 ページ及び 9 ページをご覧ください。問 18 から問 21 では、通園区域と園バスの必要性について聞いております。通園区域は、6 割以上の方が必要と回答しており、また園バスについては、半分以下の方しか、必要であると回答していないという少し意外な結果が出ております。10 ページ及び 11 ページをご覧ください。問 22 及び問 23 で給食の実施希望を聞いております。こちらは、概ね半分の方が実施を希望しており、その内、約半分の方が週 2 回程度の実施を希望しております。最後に問 24 では、ご意見・ご要望

を自由に記載していただきました。ご意見・ご要望を取りまとめると、表に示した 10 項目に分けることができました。保育内容やサービスの充実を求める声もありましたが、現状維持でも良いというご意見も多く頂いております。現在、各幼稚園ではこのアンケート調査を基に、来年度からスタートする新制度に合わせて、教育・保育の内容や提供できる保育サービスなどについて、検討を進めておりますので、意見等がまとまりましたら、またご報告したいと思います。

質疑応答)

中野委員) このアンケートを見て、非常に不思議だという印象を受けました。まず最初に、水曜日が午前保育で、1 日保育にしてほしいという意見が若干多かったのですが、今のままでいいと余り差がない。なぜかというと、子どもともゆっくり過ごしたいとあります。にもかかわらず、夏季に 1 週間程度の保育を希望している方が非常に多い。これは、夏休みにお友達と一緒に過ごす時間が欲しいという希望なのかなと推測しました。それから、教育活動は、回数が少ない。もう少し活動してほしいという意見があったにもかかわらず、希望する教育活動はない。今、瀬戸課長からのお話にありましたとおり、現状の活動の回数を増やしてほしいというふうに理解しましたとありますが、そのなのかなと思いますが、もう少し積極的にご意見いただければ、こちらも取り組みやすいのかなと思いました。それから、園バスの利用。園バスは必要だという意見が非常に多かったのは、これもびっくりしました。ただし、月額 4,000 円というのは非常に高いというご意見もいただきました。この辺は、安ければ利用したいのか、どうしても必要だから高くても利用したいのか、その辺のところはよくわからないという印象を持ちました。それからもう 1 つ、通園区域ですが、やはり私が心配していたとおり、園区の境目あたりの人は選択できるといいという意見がありました。やはり、自宅から近いところを希望されているのかなという印象を受けました。

曾田委員) 7 ページの希望する教育活動ということで、保護者の方がいろいろな希望を持っておられます、現在は希望として載っているけれども、この中で実施されていることはあるのでしょうか。

子育て支援課長) 上から見ていっていただきますと、運動全般ということで体操などは現在もやっております。その下のサッカーなども基本的にはやっております。あと、水泳につきましても、どの程度のレベルで実施しているかによると思いますが、プールもございますので、夏の水遊び程度でしたら実施しております。食育・英語についても、現在やっております。そこから下になりますと、若干難しいのですけれども、一番下の 12・13 番あたりについては、やはり大磯町は自然環境がよいので、散歩で出かけて行った中の自然学習など、また工作などについては、日ごろから制作活動がございますので、その辺は実施している形になっております。

曾田委員) わかりました。そうすると、希望する教育活動とありますけれども、大方はやっておられるということで、町の幼稚園が動いているということで理

解してよろしいわけですね。

子育て支援課長) 全体的に希望される内容として多かったのが、年長さんに限ってだとは思うのですけれども、小学校に上がる準備段階の勉強ということで、読み書き、あとは簡単な算数、足し算・引き算ぐらいのものをというご意見のほうは、かなりありました。

曾田委員) わかりました。ありがとうございました。

濱野委員) 体操、マット、跳び箱などが結構上のはうに上がっていますが、リトミックも今されているんですよね。そのリトミックというのは、回数はどれくらいされているのですか。

子育て支援課長) リトミックは、実施しているとは聞いているのですけれども、多分年に数回だと思います。細かい数字は持っていないのでわかりません。

濱野委員) 体操よりかは多いですか。

子育て支援課長) 変わらない程度だと思います。

濱野委員) 体操は1学期に1回だけですよね。リトミックも、先生を呼んでもされているわけですか。

子育て支援課長) はい、そういう形になっています。

濱野委員) 体操は私が行っていますが、1学期に1回しかやらないんですけど、マットを出して、しまうのも私なんです。2学期に行って、全く同じようにしまってあるマットを取り出して、一度も使っていなかったんだなと思うんですけども、先生が来ないとダメなんですか。幼稚園の先生でもマットも跳び箱もできそうですよね。

子育て支援課長) マット・跳び箱について、担任の教諭がというお話ですけれども、なかなかそこまでの専門的な知識がないので、遊びの中として使うのは可能だと思うのですけれども、それを実際の運動として指導していくというのは、ちょっと難しいかなと思います。

委員長) このアンケートは、保護者の方にも結果は渡されるのですか。

子育て支援課長) 現段階ではまだ外には出しています。各園の先生方には、お渡しして見ていただいているので、機会があれば、保護者の方にもご覧いただければと思っております。

委員長) こういうアンケートは、幼稚園のことに限らず、関わっていただいた方たちは当然結果を知りたい内容だと思いますので、何らかの形で、保護者にも届けられたらいいのではないかと思います。感想を言わせていただきますと、通園区について、この先、大磯町で幼稚園の事業についていろいろ変化が出てくると思うのですけれども、その中で園区が撤廃されることと、そうなると通園について、通園バスがどうなるのかということについては、今、幼い子を抱えているご家庭では、すごく注目している部分だと思います。今回、このアンケートの数字も出てきておりりますので、その辺についても十分話し合っていただきたい内容だと思います。よろしくお願ひします。

報告事項第4号 平成26年度大磯町成人式及び新成人記念のつどいの開催について

生涯学習課長) 報告事項第4号、平成26年度大磯町成人式および新成人記念のつど

いの開催について報告いたします。裏面の開催要領をご覧下さい。成人式は、新たに成人を迎えた方々を祝い励まし、大人としての自覚をもって心豊かな生き方を目指していただくことを願って毎年開催をしております。本年度の日程は、平成 27 年 1 月 12 日の祝日、午後 1 時 30 分から 3 時 30 分までの予定で開催をいたします。会場は大磯プリンスホテル国際会議場となっております。内容の構成は、前半の成人式式典を大磯町と大磯町教育委員会の主催で行います。続いて後半は、新成人自らが組織する実行委員会による新成人記念のつどいが開催されます。新成人の該当者は、平成 6 年 4 月 2 日から平成 7 年 4 月 1 日までに生まれた方が対象です。平成 26 年 12 月 1 日現在で、男性が 164 人、女性が 138 人、合計で 302 人となっています。当日のスケジュールですが、午後 0 時 50 分から受付を開始し、1 時 30 分から式典を開始いたします。式典は生涯学習課の進行で行ない、関係者からの祝辞・挨拶のみで、15 分程を予定しております。引き続いて、新成人記念のつどいが、実行委員会の主催・進行で執り行われます。開会の後は、実行委員長による挨拶、恩師の紹介、会費制のティーパーティーへと進みます。ティーパーティーの席では実行委員が作成した思い出の画像が BGM とともに流される予定です。その後、実行委員の自己紹介、そして閉会という行程になっております。構成は、昨年度とほぼ同じ内容になっています。また、当日の受付については、新成人の実行委員のほかに、大磯町青少年指導員の方々にお手伝いをしていただきます。この他、これから成人式を迎える 16 歳から 19 歳の方でお手伝いをしていただける方を広報にて募集しております。現在、高校生数名の問合せがあります。ボランティアとして当日の手伝いをしていただきながら、成人式を見ていただき、自分達の成人式のあり方を考えもらうきっかけになればと考えています。なお、教育委員の皆様におかれましても、ご都合がつきましたらご出席いただき、成人の門出をお祝いいただけたらと思います。

質疑応答)

委員長) 昨年と同じような内容でやるということで、こここのところ、非常にいい成人式が続いていると思います。少し羽目を外す子もいますが、そういう子もいるのは普通の風景ではあります。大混乱を起こすような、ニュースであるようなひどいこともありませんし、それぞれみんな節度を守って、多くの人たちが参加してくれているので、ことしもいい成人式になるように期待しています。

中野委員) 地元の学校を出ていない方が、もう少し居心地がいい雰囲気があるといいなと思います。

生涯学習課長) そうですね。毎年やはり意見として出ることですし、通常の成人式が終わった後でも、実行委員会の反省会の中でも、そういう話を反省の中に入れ込むようにしているのですけれども、実行委員さんというのは、どうしてもその年度その年度だけ企画・運営に携わっていただいていますので、そのあたりの反省をどう引き継いでいくかというところが課題になっていると思います。そういう意味では、高校生あたりの若い人に見ていただいて、そういう課題をそこでちょっと実感していただいたり、認識していただくとい

うことが、2年後、3年後の成人式の運営の仕方にうまく反映できればなということは考えております。ただ、どうしても現状では、非常に難しいところはございます。

中野委員) 町外の学校に行かれた方でも、いずれ、将来、大磯はやっぱりいいところだと思って戻ってきてくれるきっかけになるといいなと思いました。

報告事項第5号 第61回おおいそ文化祭の実施結果について

生涯学習課長) 報告事項第5号第61回おおいそ文化祭の実施結果について、ご報告をいたします。裏面の実施結果概要をご覧下さい。第61回おおいそ文化祭は、10月18日から19日の2日間を中心に町施設で、また、10月18日から11月3日まで各地区会館で開催いたしました。福祉センターさざれ石では、10月18日と19日の土日2日間、参加12団体による舞台発表が行われました。18日午前9時からのオープニングセレモニーのあと、順次発表が行われ、2日間の来場者は699人を数えました。展示会場としては、まず、保健センターにおいて、同じく10月18日、19日の土日2日間、11団体による展示が行われ、2日間の入場者は465人でした。続いて、図書館では、同日2日間、3団体による展示が行われ、来場者は304人でした。郷土資料館でも、同日2日間、団体に参加していない個人参加による、おおいそ美術展を開催したところ、31作品の出展がありました。来場者は505人でした。以上の4会場では、恒例のスタンプラリーを開催して町施設2会場以上をご覧いただいた場合に記念品をお渡ししました。その結果、全体で256個を配布しました。鳴立庵では、10月19日の日曜日に大磯町茶道協会によるお茶席が設けられ、100名の参加がありました。国府支所では、同じく10月19日の日曜日に、大磯囲碁クラブによる囲碁大会が開催され、38名の参加がありました。また、この他に、おおいそ文化祭の協賛行事として郷土資料館では、大磯合併60周年記念展、地図と風景写真から見る大磯を開催しております。展示結果の詳細については、後ほど、報告事項第11号で報告いたします。また、同じく古文書裏打ち体験を11月16日に開催し、2名の方が見学、1名の方が体験されました。なお、この他に10月18日から11月3日の期間内に、町内13地区におきまして地区文化祭が開催され、それぞれたいへん盛況でありました。発表・展示会場は、昨年と同じ場所を使用しました。昨年度は天候に恵まれなかったことから、2日間の人出は、総計1,824人と伸びませんでしたが、本年度は天候にも恵まれ、2,111人と、昨年度と比較して300人ほどの増加いたしました。文化祭終了後、運営委員会におきまして反省会を開催し、さまざまな課題が出ましたので、課題を精査しながら来年度に向けて文化祭の開催・運営方法の検討を続けてまいります。

質疑応答)

委員長) 囲碁大会というのがありますけれども、これはいつもされているんですか。

生涯学習課長) これは、囲碁の団体が幾つかあるようですが、町全体として

囲碁クラブといいますか、その団体があらかじめ大会参加者を募集しまして、競技形式の形でやっていらっしゃるものです。これは毎年やっておりまして、大体 30 人から 50 人の間で集まって、その日のうちに最後までやるというような企画をされているようです。

委員長) では、優勝者がいてという形ですか。

生涯学習課長) そういう形になります。

委員長) わかりました。平塚市も囲碁が盛んなところですけれども、隣同士の町としても、囲碁をそうやって愛好されている方がいるなら、こういうような大会で盛り上がっていくといいなと思いました。

報告事項第 6 号 図書館教養講座『湘南の考古学』の開催について

図書館長) 報告事項第 6 号、図書館教養講座、湘南の考古学の開催について報告いたします。説明資料をご覧下さい。図書館では集会活動事業を通して、広く学習の場を提供するように努めております。学習の場を提供することで、図書館がより親しみやすい身近な存在となって、あわせて生涯学習の一助につながることを期待して開催するものです。本年度のテーマは、湘南の考古学といたしました。大磯を中心とする湘南地域を、縄文時代の土器から近現代のレンガ遺物や戦争遺跡に至るまで 2 回にわけて取り上げ、考古学を通して湘南地域を探っていこうという内容です。会場は図書館本館 2 階大会議室。郷土資料館学芸員が講師を務めまして、募集定員は 45 名といたします。広報については、チラシ、ポスター、町広報 1 月号、ホームページ等で周知しまして、年明けの 1 月 6 日から受付をする予定で準備を進めております。

報告事項第 7 号 大磯町合併 60 周年記念 第 13 回大磯図書館まつりの実施結果について

図書館長) 図書館では、本に親しみを持っていただくとともに、地域のふれあいの場として、さまざまな世代の方々に図書館へ集まつていただくことを目指して、図書館まつりを毎年開催しております。今年で 13 回目を迎えました。特に本年度は合併 60 周年記念事業のひとつとしても位置づけて開催いたしました。開催日時は、平成 26 年 11 月 16 日の日曜日、午前 9 時から午後 3 時まで、図書館本館において開催しております。主催は図書館、共催として大磯図書館まつり実行委員会。また NPO 法人大きなおうちの協力をいただいております。催し物の内容は、古本市、スペシャルおはなし会、折り紙教室、紙袋魚つり、森の手作り広場、ぬり絵、図書館クイズ、ティールームなどです。それぞれの参加者数は、表にあるとおりです。特に、古本市については、今年の出品冊数は 1 万 600 冊でした。昨年は 5,100 冊でしたので、2 倍以上の出品冊数を準備することができました。持ち帰り冊数は 5,600 冊、やはり昨年の持ち帰り冊数 2,500 冊を大きく上回っております。当然、古本市の参加者も増加しておりますが、古本市のみならず、全体的な参加者は 300 名ほどの

増加がみられました。また、協力金も多くの方々からご理解をいただきまして、当日の参加者からの募金、協力をいただいた NPO からの寄附をあわせて、67,850 円となりました。これは実行委員会が集計して児童書を購入し、図書館に寄附をいただくことになっております。なお、図書館は空調改修工事中でしたが、図書館まつり開催日は、工事を休工としましたので、特に混乱もなく盛況のうちに終了することができました。

質疑応答)

中野委員) 除籍した本の半分以上を持って帰っていただけて、非常にありがたい、リサイクルがうまくいっているなという印象を受けました。こういう状況で、また来年も続けられたらしいなと思いました。

委員長) 除籍した本の冊数が非常に多いんですけれども、今回思い切っていろいろ除籍する本を調べ上げて多くなったという形なんでしょうか。それとも、毎年やっぱりこれぐらいは除籍する本というのでは出てくるということですか。

図書館長) 除籍の本も多かったのですけれども、それ以上に、利用者から図書館への寄贈図書というものがありまして、要するに、利用者の方がご自分で購入されて読み終わった本を図書館に寄贈される、リサイクルをしようと、そういうことが今非常に多くなってきております。そういう気持ちを持った方が非常に増えてきたということと、それから図書館まつりも 13 回を迎えていますので、リサイクルの本を持ち込むことによって古本市で活用されるという、そういう部分もかなり周知されてきているのかなという印象を受けています。

報告事項第 8 号 郷土資料館運営委員の委嘱について

資料館長) 資料に大磯町郷土資料館運営委員名簿と、大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例の抜粋を掲載しております。大磯町郷土資料館運営委員会は、館の円滑な運営を図るために事業等のご意見をうかがう組織であり、現在 5 名の運営委員を委嘱しております。運営委員の任期は 2 年で、平成 27 年 1 月 7 日に現在の任期が満了することに伴い委嘱するものです。

質疑応答)

委員長) 再任ということで受けさせていただけるということです。

報告事項第 9 号 郷土資料館リニューアルについて

資料館長) 郷土資料館リニューアルにつきましては、基本構想、基本設計を受け、今年度につきましては実施設計に係る作業を進めております。今回はリニューアルについての方針、具体的な更新内容、またその考え方について説明をさせていただきます。資料 A 3 色刷り資料の 1 枚目、資料番号 1 をご覧ください。リニューアルでは 5 項目について更新を検討しています。1 つ目が、

施設名称の変更で、イメージチェンジを目的として施設名称の変更を検討いたします。2つ目が、町独自の展示を強化で、別荘文化を背景に近代史、現代史に重点を置いた、独自性の強い展示活動を展開するというものです。3つ目が、町づくりにおける文化の核としての位置づけを強化で、文化資源相互をつなぐ役割を強化し、更に観光との連携を強化するというものです。4つ目が、新たな大磯の魅力を発信で、町民とともに活動してきた蓄積をもとに、新たな大磯の魅力を発信するという内容です。5つ目が、廻廊の有効活用です。5項目について、個別にご説明申し上げます。まず、施設名称の変更ですが、館の活動の実態にあわせ、博物館法上の博物館であるということを前面に出すべく、施設名称の変更について検討します。2つ目の町独自の展示の強化について資料番号2をご覧ください。現在の常設展示室の大型展示物であり、当館の展示を印象づけていた御船祭の船山車にかわり、別荘地大磯ゆかりの人々に関係する資料や別荘模型などにより、近代史、現代史を中心とした展示構成を計画しております。これにより県内他の博物館では見られない独自性の強い展示活動を展開することが期待されます。3つ目の町づくりにおける文化の核としての位置づけの強化について資料番号3をご覧ください。郷土資料館のリニューアルは郷土資料館の別館として位置付けられる旧吉田茂邸の再建計画に併行して進めています。再建後は、本館郷土資料館で政治家 吉田茂について学び、別館では吉田茂が過ごした場の雰囲気を体感するという流れが想定されます。引き続いて資料番号4をご覧ください。郷土資料館については町内の魅力ある自然景観、文化資源をめぐるネットワークの拠点として、特にガイダンス機能を有した施設運営が求められると考えられます。町内に点在する自然景観、文化資産について郷土資料館においてガイダンスするということで、交互に予習・復習機能を持つというイメージです。この機能は観光の核づくりの計画ともリンクさせることができます。資料番号5をご覧ください。四つめの「新たな大磯の魅力を発信」は、郷土資料館の常設展示についての内容であります。郷土資料館は今まで、町民の方々とともに調査を行い、資料整理などを実行してきたという開館後 26 年にわたる蓄積がございます。今までの活動の集積を、常設展示で展開していくと考えています。資料番号6をご覧ください。5つ目の廻廊の有効活用について、回廊では、大磯の先駆者たちという常設展示を行なっていますが、新たな常設展示では、全体のまとめ部分となると同時に、多様な有効活用が図れるよう展示環境を整えることを計画しています。資料番号7は今までの検討内容を建物平面図にまとめたものです。資料番号8は、常設展示室の展示構成の検討状況です。

質疑応答)

曾田委員) この構想がきちんと動き出しますと、大磯町が文化の町であるということが言えるのではないかということで、大いに期待をしたいと思っております。頑張ってください。

委員長) 最初の、方針1のチェンジ1の名称の変更をするという話ですが、これはやはり郷土資料館というのではなくかイメージがよろしくないという気持ちで

いらっしゃるんですか。問題があるわけですか。

郷土資料館長) イメージが悪いということではなく、リニューアルを進めるうえでの検討材料の一つとして出させていただいているということです。

委員長) たくさん的人に来ていただくために、より親しみやすい、見ただけで中身が想像できるようないい名称があれば一番いいと思います。私は、ちょっとどこか遠方に旅に出たときに、その地域のことを知ろうと思ったら、その民俗資料館とか郷土資料館はどこにあるのかなと調べるほうでしたので、その土地の資料館という名前を変更したいなというようなことが書かれているのは、ちょっと意外ではあったんです。でも、たくさんの方に利用していただきたいという考え方のもとで、いい名称に変更がもしできればいいのかなと思います。どんな名前が上がってくるのか、今すごく興味を持っております。よろしくお願ひします。

中野委員) よその似たような施設に行くと、パソコンのモニターが置いてあって、ちょっとした歴史クイズですか、マルバツ式の、クリックして答えるようなクイズとかゲームみたいなものがあったりするのをよく見かけます。そういう要素も、もちろん見ていただくものですけれども、そういうのも参考にされて、いいところは取り入れられたらなと思いました。

濱野委員) 中野さんのお話とダブりますが、城山公園の池があるところの入り口に、ボタンを押して施設がわかるようなところがあります。子どもが好きで、最後まで聞かないのにボタンを押してしまいます。資料館の中にそれがあると少しうるさいので、音がないもので、押したら、どことどこの別荘がここにあるというのが、わかってもおもしろいのかなと思います。私も、土地土地の資料館というのは思い浮かばなかったんですが、博物館があると必ず中に入って、町の様子だとか、国の様子とかがわかるのが好きですので、ぜひ大きなものになってもらいたいなと思います。

郷土資料館長) ご指摘のありました内容につきましては、機械の耐久性やソフトの陳腐化等の問題もありますので、それらを含めて検討していきたいと考えております。

報告事項第10号 企画展「大磯の文化財」の開催について

資料館長) 資料裏面をご覧ください。今回の展示は、郷土資料館 平成26年度 第4回企画展であり、平成27年1月6日火曜日から2月28日土曜日まで、46日間の開催を予定しております。今回の企画展は、大磯町の文化財を概観し、広く文化財保護の意義を紹介することを趣旨として開催いたします。内容は、大磯町内の、有形文化財、無形民俗文化財、史跡、天然記念物などの指定文化財等について、原資料、写真、関連資料などにより展示を構成いたします。刊行物については、A4判のリーフレットを作成いたします。今回の企画展については広報でご案内し、また、リーフレットの配布やホームページなどでも周知を図ってまいります。

質疑応答)

曾田委員) いろんな大磯町の文化財がおりだと思いますが、企画の中には、今回

の一番大きな目玉はどこに置いておられますか。ただ横並びなのか、あるいは今回これを訴えたいんだというような文化財は、特におありでしょうか。

郷土資料館長) 大磯町の町内にある文化財、また今回取り扱うのは指定文化財のみではなく、文化財という広い観点で捉えることを目的としておりますけれども、文化財自体の保管されている状況とかいろいろな問題があるので、その種類全てをご紹介することはできないのですが、神像や絵図など修復が進められている有形文化財がありますとか、発掘調査の出土資料で保存処理が済んで、公開できるような状態になったもの、そのほか、無形民俗文化財の関連資料や写真などを展示する予定でいます。

報告事項第11号 合併60周年記念企画展「地図と風景写真から見る大磯の実施結果」について

資料館長) 資料をご覧ください。今回の展示は、郷土資料館 平成26年度 第3回企画展であり、平成26年10月11日土曜日から12月7日土曜日まで、48日間にわたって開催いたしました。今回の展示は、資料の展示概要に記載しております3つのテーマを軸に、古地図と風景写真によって展示を構成いたしました。会期中の入館者は6,619人で、1日平均138人近くの方が来館されたことになります。

質疑応答)

中野委員) 入館者の年齢層は、わかりますか。

郷土資料館長) すべてを把握はしておりませんが、アンケートによりますと、10歳未満から90歳代までの大変幅広い年齢層の方に来ていただいております。また、今回、ご家族連れて、年配の方がご家族に解説をしているというような光景も見られましたので、ご自身が体験された風景を次の世代に伝えるというような形が幾らかでもとれたのではないかと感じております。

中野委員) 大変いい結果を聞かせていただきました。

委員長) 感想ですが、やはり昔と今を比較する。自然や地図、絵などそういうもので比べられるというのは、大人も子どももすごく理解しやすい形でとてもおもしろい、興味深い展示だったと思います。人々が写っている写真も、生活の様子の変化、移り変わりというのが、大磯も数十年前はこうだったんだな。随分変わったなというのが、一枚一枚、しみじみ感じることができた展示だった思います。とてもいい企画だったと思います。

その他

学校教育課長) 次回の定例会は1月16日金曜日午前9時から本庁舎4階第1会議室にて行います。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成27年2月19日

委 員 長 _____

委員長職務代理者 _____

委 員 長 _____

委 員 長 _____